資料1

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和5年度
意見交換会（第2回）

宮城県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
2023年9月6日

● 第１回意見交換会の振り返り⇒調整状況の報告

○　「エクスカーションプログラム」の試行年度として位置付けた今年度の取組について、
第１回意見交換会では、以下の論点で意見交換を実施

【論点１】エクスカーションプログラムの試行が考えられる会議等について

【論点２】エクスカーションプログラムの行程案について

【論点３】実践の場の企画案等について

○　それぞれの論点に関する議論の状況とその後の調整状況については次ページからのとおり

第１回意見交換会の振り返り⇒調整状況の報告
（【論点①】エクスカーションプログラムの試行が考えられる会議等について）

○　第１回会議では、各副代表団体からエクスカーションプログラムの試行が考えられるMICE等をリストアップいただき、更なるリストアップが可能かについて議論。（参考　p.16）

○　いただいた意見を踏まえ、各会議主催者等と調整を実施。

対象となる会議に関する主な意見	意見を踏まえた調整
○　「巨大津波災害に関する合同研究集会」は2003年に設立され、若手の学生や研究者が発表するような、簡易的な研究発表会である。事務局側がツアーを組んで参加者を募ることは、難しいのではないかと考えているが、パッケージのようなものを準備していただけるのであれば試みてみたいという意見はいただいている。	○　事務局及び現地旅行会社の間で、エクスカーションプログラムのブラッシュアップを実施（論点②で詳細）。 ○　当該プログラム案をベースとしたプログラムの実施について、東北大学において検討中。
○　支店長たちのネットワークがあれば、そこにアプローチすることも考えられる。本店に戻ったり、別の地方に赴任したりしても、関係人口になってくれると良い。	○　仙台港周辺賑わい創出コンソーシアムとの間で、構成メンバーの支店長・幹部による研修での実施を計画中。 ○　みやぎ連携復興センターとの間で、内陸部のNPO団体職員向けの研修での実施を計画中。
○　企業研修等の中でやってみてもいいのではないかという話があったが、それは可能性が高いと思う。エクスカーションはエクスカーションで狙っていきながら、ハードルが高い部分については企業研修の中で、新たに仙台市に人が来て研修をやりたいという企業とマッチングをしてやっていく。そういったこともあるだろうと思った。	
○　宮城県の観光誘致協議会では、事務局各社の研修会の経費を助成している。旅行商品を造成・販売・営業活動する際、経験のない若手の職員に東北３県の状況を見せたいと思っている旅行会社もいる。そういうところにアプローチして、研修会でコースを回ってもらうこともできるのではないか。企業研修でコースを批評してもらって、将来的に旅行商品を作る若手の人たちへのアプローチをしてもいいのではないか。	○　観光誘致協議会、旅行会社・関係団体等に個別相談差し上げたが、スケジュール等の都合で断念。 ○　一方で、コースの批評、将来的に旅行商品を作る旅行関係会社への若手へのアプローチという視点については、実践の場において取り入れを検討。（論点③で詳細）
○　政府や自治体ではMICE誘致に取り組んでいるため、そういったところと協力してリストアップしていくのも考えの一つ。	○　宮城県より今年度に開催予定のコンベンションのリストを提供いただき、個別にアプローチを実施。

第１回意見交換会の振り返り⇒調整状況の報告
（【論点②】エクスカーションプログラムの行程案について）

○　第１回会議では、事務局から６つの行程案を提示し、行程の内容等について議論。

○　指摘を踏まえ、**「ならでは」コンテンツを盛り込んだ**２つの行程案にブラッシュアップ。

＜前回会議での主な意見＞

○　内容はもう少しブラッシュアップした方がいいと思う。特に、個人で行けるところだけのコースだと、なかなか商品として買っていただけないと思う。「このコースに入れば特別なところに行ける、これは個人では行けないよね」というところがあることが重要だ。

○　震災があったところと復興したところというストーリーはあるが、せっかく仙台に来ていただいたのだから、併せて仙台らしさ・仙台の魅力も途中途中で入れていかないと、それが仙台のものなのか、単なる被災地なのか？ということになってしまう。

○　特別なことを入れるという要素は強いと思う。エクスカーションプログラムとはいえ、旅行商品と考えると面白さはまず大事で、プラス特別さだ。特別さの中で震災の色をしっかり出していくという方向性にしてもいいのかなと思う。

○　考え方としてMICEが終わって1泊してもらって朝からスタートするバージョンや、午前中にMICEが終わって夕方の新幹線で帰るまでの間を上手く使うなど、いろいろなパターンがあると思う。そこは、我々は１泊した後の翌日を使うという意志表示をしっかりした方がいいと思う。

○　行程に行ったり来たりがあるなと思った。

○　バス旅行の前提で検討されているようだが、バス旅行だと少し集めにくいのかなと個人的には思う。バス相当の費用を負担できるかというとなかなか難しいのではないか。自由に動くことができるけれども、いくつかの施設や遺構を回りたくなるような仕組みや仕掛けなどを考えてはどうかと思う。スタンプラリーのようにアプリで登録して何ヵ所か回ると割引になるとか、そういうものがあってもいいのではないかと思った。

第１回意見交換会の振り返り⇒調整状況の報告
（【論点②】エクスカーションプログラムの行程案について）

プログラムＡ：宮城県沿岸地域の被災地域における賑わい創出への取り組み（みらい旅くらぶ）

- 行程にスルーガイドが同行し、視察コースの意図を説明。
- 高砂中学校の防災に対する取組と、産業施設であるキリンビール工場がいかに市民の心の支えになってきたかを語る。
- 人の暮らしと震災をテーマに、「教育と防災」「地域企業と防災」といった地域防災についての独自の取組を学ぶことができるのがならではのポイント。
- 通常では訪問が困難な仙台市立高砂中学校へ訪問。
- メインターゲット層は行政・教育関係や企業管理職等が中心か。

場所	開始	終了	交通機関	行程
仙台駅東口 バス乗り場	9:00		専用車	仙台市東部エリアへ向けて出発
仙台市	9:30	10:30		**震災遺構仙台市立荒浜小学校**を訪問 ※　職員による案内のほかに外国語対応のガイドも手配可能
	11:00	12:30		**「ならでは」ポイント①** **仙台市立高砂中学校**を訪問 **～大人だけでなく地域の中学生の力を必要とさせる取組を紹介～** ※　高砂中学校は地域と連携した学校防災活動を推し進めている ※　「高砂中防災ノート」という独自の教材を活用した防災学習が特徴 ※　同校の先生から、地域と連携した学校防災活動の内容を説明
	13:00	14:00		昼食
	14:15	16:15		**「ならでは」ポイント②** **キリンビール仙台工場**を訪問（震災講話・工場見学） **～通常の案内に加えて同施設が市民の心の支えになったエピソードを語ります～** ※　キリンビール仙台工場には、震災当時、500人近い人々が避難。 日ごろから近隣住民を交えた防災訓練を行い、食糧や寝具などの備蓄を備えていたという同工場の取組から、今後の来るべき大地震への備えを学ぶ。 ※　工場の広報担当者から説明
	16:15	17:00		仙台駅に向けて出発 仙台駅到着後に解散

※　なお、東北大学「第13回巨大津波災害に関する合同研究集会」に対するプログラムについては、午後のみ（半日）のプランを求められていることから、本プランをベースにアレンジしたプランにて提案、東北大学において開催の有無含めて検討中。

第１回意見交換会の振り返り⇒調整状況の報告
（【論点②】エクスカーションプログラムの行程案について）

プログラムＡ：宮城県沿岸地域の被災地域における賑わい創出への取り組み　チラシ初案

宮城県エクスカーションプログラム

新しい東北

宮城県沿岸地域の被災地域における賑わい創出への取り組み

行程にスルーガイドが同行し、視察コースの意図を説明。
人の暮らしと震災をテーマに、高砂中学校の防災に対する取組と、
産業施設であるキリンビール工場がいかに市民の心の支えに
なってきたかを伝えます。

※写真はすべてイメージです。

旅行期間	2023年00月00日（　）
募集人員	00名（最少催行人員00名）
ご旅行代金	お一人様（大人・小人共）0,000円
添乗員	スルーガイドが同行します
集合場所	JR仙台駅 東口バス乗り場
集合時間	午前0時00分
食事条件	昼食付
利用バス会社	□□□□バス

［申込締切］2023年00月00日●まで

場所	開始	終了	行程
仙台駅東口バス乗り場	9:00		仙台市東部エリアへ向けて出発
	9:30	10:30	震災遺構仙台市立荒浜小学校を訪問
仙台市内	11:00	12:30	みらい旅くらぶならではのポイント 仙台市立高砂中学校を訪問 大人だけでなく地域の中学生の力を必要とさせる取組を紹介 ◇高砂中学校は地域と連携した学校防災活動を進し進めています ◇「高砂中防災ノート」という独自の教材を活用した防災学習が特徴です ◇同行の先生から地域と連携した学校防災活動の内容を説明していただきます
	13:00	14:00	昼食
	14:15	16:15	キリンビール仙台工場へ みらい旅くらぶならではのポイント キリンビール仙台工場（震災講話と工場見学） スルーガイドが、通常の案内に加えて同施設が市民の心支えになったエピソードを語ります キリンビール仙台工場には、震災時、500人近い人々が避難しました。日ごろから近隣住民を交えた防災訓練を行い、食糧の蓄異などの備蓄を備えていたというリエ場の取り組みは、参観の乗るべき大地震に備え、大いに学ぶべきところがあります。
	16:15	17:00	仙台駅に向けて出発　仙台駅到着後に解散となります。

●このご旅程は運輸機関のダイヤ改正および道路状況により多少時間が変更となる場合がございます。

旅行企画・実施　みらい旅くらぶ　宮城県知事登録 旅行業 第3-327号　〒984-0001 宮城県仙台市若林区卸町6-3 東部工場団地組合会館1階

申込用紙

代表者氏名	フリガナ	年齢	歳	性別	男・女
住所	（〒　－　） TEL（　）　－　携帯電話（　）　－ E-mail				
同行者氏名	フリガナ	年齢	歳	性別	男・女
同行者氏名	フリガナ	年齢	歳	性別	男・女
同行者氏名	フリガナ	年齢	歳	性別	男・女

お申し込み方法

FAXまたはEメールまたは専用申込サイトからお申し込みください。

WEBからのお申し込みはこちら

お申し込み／お問い合せ

株式会社みらい旅くらぶ　担当：□□□□□

TEL 022-782-0833　FAX 022-782-0834　メール ○○○○○○@○○○○○○○

（個人情報の利用目的の限定）みらい旅くらぶは記入いただいた個人情報をお客様との連絡のため、お客様がお申込みいただいた旅行において宿泊・運輸機関などの提供するサービス提供のため必要な範囲内で利用させていただきます。以上に同意の上、ご記入をお願いいたします。

旅行条件（要約）【お申し込みの際には、必ず旅行条件書（全文）をお受け取りいただき、事前に内容をご確認のうえお申込ください。】

第１回意見交換会の振り返り⇒調整状況の報告
（【論点②】エクスカーションプログラムの行程案について）

プログラムＢ：門脇小学校で防災の大切さを学び、被災から復活を遂げた牡蠣養殖の物語を知る（JTB仙台支店）

- 行程にスルーガイドが同行し、視察コースの意図を説明
- 門脇小学校で東日本大震災による沿岸部の被害状況、防災知識等の基本的な情報を学んだ後、宮城県の重要な水産資源である「牡蠣養殖の震災からの復活」をテーマとした一連のプログラムを体験。
- ならではポイントとして、地産ワインと牡蠣とのマリアージュや漁船での牡蠣だな見学、閉館後のうみの杜水族館の見学を盛り込む。
- メインターゲット層はプログラムAより幅広く一般市民層。

場所	開始	終了	交通機関	行程
仙台駅東口 バス乗り場	9:00	10:00	専用車	三陸自動車道を経由して石巻市へ
石巻市	10:20	11:50		**石巻市震災遺構門脇小学校**を訪問 ※唯一津波火災の脅威を伝える震災遺構であり、避難行動や平時からの訓練の重要性等を伝える ※多言語対応可能
東松島市	12:30	13:30		**「ならでは」ポイント①** **奥松島イートプラザ**にて昼食 ※宮城県産牡蠣を堪能 ※ワインの海中熟成で知られる「三陸ワイナリー」のワインを用意
松島町	14:00	16:00		**「ならでは」ポイント②** **地元漁師と行く牡蠣だな**見学 ※漁船にて船長とガイドと一緒に牡蠣だな見学
仙台市	16:30	18:00		**「ならでは」ポイント③** **閉館後のうみの杜水族館**見学 ※特別に閉館後の水族館見学を実施 ※津波被害にあった松島マリンピア水族館を引き継ぐ形で開業したうみの杜水族館。開業までのストーリーや宮城県の水産業の復興に向けた取り組みを学ぶ。
	18:00	18:20		仙台駅に向けて出発 仙台駅到着後に解散

第１回意見交換会の振り返り⇒調整状況の報告
（【論点②】エクスカーションプログラムの行程案について）

プログラムＢ：門脇小学校で防災の大切さを学び、被災から復活を遂げた牡蠣養殖の物語を知る　チラシ初案

宮城県エクスカーションプログラム

新しい東北

門脇小学校で防災の大切さを学び、被災から復活を遂げた牡蠣養殖の物語を知る

行程にスルーガイドが同行し、視察コースの意図を説明。
門脇小学校で東日本大震災・防災の大切さを学び、閉館後の仙台うみの杜水族館で、
市民の心の拠り所でありつつ牡蠣養殖の復活を支えた同館の取り組みを知る。

※写真はすべてイメージです。

【申込締切】2023年00月00日●まで

旅行期間	2023年00月00日（　）
募集人員	00名（最少催行人員00名）
ご旅行代金	お一人様（大人・小人共）0,000円
	※国内旅行保険は旅行に含まれておりません。各自で加入されることをお勧めいたします。
添乗員	スルーガイドが同行します
集合場所	JR仙台駅 東口バス乗り場
集合時間	午前0時00分
食事条件	昼食付
利用バス会社	□□□□バス

注意事項
●このご旅程は運輸機関のダイヤ改正および諸種状況により多少時間が変更となる場合がございます。●□□□

第１回意見交換会の振り返り⇒調整状況の報告
（【論点③】実践の場の企画案等について）

○　第１回会議では、**大阪・関西万博において紹介するエクスカーションプログラムの造成**にも資するものという観点で、実践の場のコンセプト、内容等について、フリーディスカッションを実施。

○　今年度のエクスカーションプログラムの試行結果の共有とともに、個人旅行客等も見越して東北地方の魅力があるスポット・コンテンツの磨き上げや効果的な情報発信につながるような企画として、次ページのような案を整理。

＜前回会議での主な意見＞

○　大阪・関西万博からの誘致と考えた場合には、ターゲットはインバウンドだと思う。予想される来場者の内訳が欧米系の方なのかアジア系の方なのかによって、見せ方は変わるだろうと思っているが、おそらく震災や復興にそれほど興味がある方々が来るわけではないと思う。震災から復興した魅力がある場所を上手く発信して、行ってみたいなと思ってもらう、「ばえるスポット」みたいなものも重要だ。

○　万博を狙った場合、おそらく個人で入ってくるので、エクスカーションに団体で連れてくるのは難しいだろう。万博から東北に来てもらうためには、インバウンドの個人旅行客にどう対応するかが１つの論点になってくると思う。個人旅行客へのアプローチは非常に難しいが、SNSでバズらせるのが今はインバウンドに一番効果的だと言われている。観光業界にとっては難しいところだが、万博に関してはインバウンドを頭の中に入れてやっていかなければいけないだろう。

○　予め用意されたプログラムに加えて、関心を持った人・もの・こと・食などを自由に組み合わせて回るためのインビテーションカードも作成したい。ある程度ターゲットが絞れて規模も計算できるエクスカーションプログラムとアラカルトメニューの両方が必要だと思う。

○　海外から来る人たちには、万博の次にどこに行くか決めていないという人たちもいる。だから大阪に来て東北に来る可能性もある。旅前の情報提供はもちろんだが、旅中（なか）で「万博の次にどこ行こうか」という情報提供が重要になってくると思う。万博が終わって次にどこに行こうというときにスマホを見て、「ここがいいな」と東北が出てくるようにしていかないといけない。人で惹きつけて、「この人に会いに行こう」でもいいと思う。

第１回意見交換会の振り返り⇒調整状況の報告
（【論点③】実践の場の企画案等について）

【企画趣旨・コンセプト】

- 東北地方の魅力あふれる姿・復興の姿を発信する観光コンテンツ・プログラムは 「人」がつなぎ、つむぐもの
- これまで「点」として発信されていた観光コンテンツについて、震災からの復興の物語や被災地の想いを主観的に伝え、人と人（旅行者と現地事業者、現地事業者同士、現地事業者と地元の方々）のつながりを生み出す「面」としてのコンテンツへと磨き上げるためにはどのようにすればよいのか、 MICE関係者や将来の観光産業の担い手とヴィジョンを共有するためのフォーラムを開催する

【開催場所】

仙台市内

【開催時期】

令和５年12月中下旬（12/18の週のイメージ）

【案内対象】

宮城県内・県外のMICE関係者（旅行会社、旅行関係団体、現地事業者等）、行政関係者、一般の方

【プログラム案】 ※２～３時間程度を想定

<第１部>　・・・　*観光プログラムにストーリーを持たせることの重要性やスルーガイドの有用性の再発見*

- ・EP実施の様子をスライド、映像を用いて紹介
- ・解説ポイントの説明　等

○ インプットトーク　「宮城県における観光・震災復興の現状（P）」　【登壇者：P】
○ エクスカーションプログラム試行結果の報告　【登壇者：スルーガイド】
○ クロストーク（パネルディスカッション形式）　【登壇者：スルーガイド、旅行会社、外部有識者、県（P）】

<第２部>　・・・　*観光コンテンツにストーリーを持たせることの重要性の再発見、若者目線でのコンテンツの磨き上げ*

○ プレゼンテーション「TOHOKU Waltz Invitation Card & Set Menu」　【登壇者：P】

⇒ 被災地の若者たちに、地域内外の誰かに向けた、東北で会わせたい人、見せたい場所、食べさせたいもの・場所等への招待状を作成いただき、これらを盛り込んだエクスカーションプログラムを発表。

確認・相談事項

確認・相談事項 1	試行対象会議・エクスカーションプログラム案についての質問・意見があればお願いします。
確認・相談事項 2	実践の場の企画案について、対案や改善点等をいただければと思います。

参考資料

● ４．今年度の取組方針

参考：令和5年5月23日
第1回意見交換会　資料1

【今年度の取組方針】
- **エクスカーションプログラムの具体化・商品化を目指し、**
- **副代表団体が行っている取組とも連携し、プログラムのコンテンツと出口をしっかりと固めていく**

⇒　今年度は**「エクスカーションプログラム」の試行の年度**とする。

● **副代表団体が行っている取組との連携**
✓　**副代表団体が関わるMICE等を対象**とした試行実施
※　今年度、５～10回程度の試行実施が可能か

● **プログラムコンテンツ・ツアー内容の深堀り**
✓　昨年度のエクスカーションプログラムに関係いただいた旅行会社、現地ガイド等とも連携して、**モデルコースを検討**
✓　MICE等の主催団体と調整の上、**実際に販売する商品ツアー**として具体化

● **最終的なプログラム出口の明確化**
⇒　当面の出口として、**関西・大阪万博開催時のプログラム化**を目指す

● 5．意見交換会・実践の場のスケジュール案

参考：令和5年5月23日
第1回意見交換会　資料1

※　EP：エクスカーションプログラム

2023年（令和5年）	4月	MICE等の洗い出し【各副代表団体】 行程案の検討【みらい旅くらぶ／JTB仙台支店】
	5月	● 5/25　第１回意見交換会
	6月	各MICE等の主催団体との調整（EP開催の有無）【事務局・各副代表団体】 各MICE等の主催団体との調整（行程の具体化）【みらい旅くらぶ／JTB仙台支店】 ・MICE等のリスト、行程案の説明 ・「実践の場」内容の検討
	7月	● EPの実施
	8月	● EPの実施 ● 8/21～の週　第２回意見交換会
	9月	● EPの実施 ・EP試行状況の共有 ・実践の場実施内容の決定
	10月	● EPの実施
	11月	● EPの実施
	12月	● 12/18～の週　実践の場
2024年（令和6年）	1月	参加者アンケートの整理 EP造成時の課題・反省点の整理等 ● 1/22～の週　第３回意見交換会
	2月	・実践の場の振り返り ・次年度の取組方針についての意見交換
	3月	

※　今後の議論状況等により、変更の可能性あり

● 6．MICE等の洗い出し結果の共有

参考：令和5年5月23日
第1回意見交換会　資料1

○ 副代表団体の皆様に対してエクスカーションプログラムの試行が考えられるMICE等のリストアップを事前に依頼。
○ 結果として、東北大学より、以下の会議の情報をいただいたところ。今後、具体的な実施に向けて調整を進める。
○ **エクスカーションプログラムの試行が考えられる会議等について、更なるリストアップが可能か。**【論点①】

＜副代表団体が主催となる会議＞

会議・学会・イベント名	主催	実施日時	実施場所	内容	対象者	参加人数（想定）
第13回巨大津波災害に関する合同研究集会	東北大学（予定）	12月7日～8日（予定）	（仙台・予定）	https://www.tsunami.irides.tohoku.ac.jp/jp/news/detail---id-164.html	研究者	

⇒ エクスカーションプログラムの実施に向け、今後、事務局と東北大学、旅行会社で具体の調整。

＜副代表団体以外が主催、副代表団体が参加等する会議＞

会議・学会・イベント名	主催	実施日時	実施場所	内容	対象者	参加人数（想定）
防災教育学会大会	防災教育学会	6月10日～11日	関西国際大学 尼崎キャンパス	http://bosai-education.net/	学会会員	
防災推進国民大会2023	内閣府	9月17日～18日	横浜国立大学	https://bosai-kokutai.jp/2023/	（一般）	約15000人（2019年）
日本自然災害学会 学術講演会	日本自然災害学会	9月17日～18日	金沢大学 角間キャンパス	https://www.jsnds.org/annual_conference/	学会会員	
日本地震学会 2023年度秋季大会	日本地震学会	10月31日～11月2日	パシフィコ横浜	https://www.zisin.jp/event/list.html	学会会員	
日本災害医学会総会 学術集会	日本災害医学会総会	2024年2月22日～24日	みやこめっせ（京都市勧業館）	https://jadm.or.jp/contents/meeting/	学会会員	

⇒ 会議自体のエクスカーションプログラムとして実施可能か、参加ブース等でのツアーの案内は可能か、など主催団体等と要調整。

● 8．TOHOKU Waltz Invitation Card & Set Menu

参考：令和5年5月23日
第1回意見交換会　資料1

【目的】

○　エクスカーションプログラムはいわばコース料理であり、これに加えて、自前の移動手段を確保できる者をターゲットとして、自分で自由に組み合わせて、より広域的な周遊にもつなげられるアラカルト及びそれらを組み合わせたセットメニューも用意する。

○　施設等の客観的な紹介ではなく、震災からの復興の物語や被災地の想いを主観的に伝えて、人のつながりを生み出すことができるメニューとなるよう、被災地からの招待状「TOHOKU Waltz Invitation Card」（仮称）を作成する。

○　招待状を作成することで、被災地に暮らす人々が自分の地域の物語や魅力を見直すとともに、関係人口を創出し、ともに東北のこれからの物語をつむぐことを目的とする。

【招待状の概要】

○　被災地の若者たちから地域内外の誰かに向けた、東北で会わせたい人、見せたい場所、食べさせたいもの等（紹介物）への招待状。紹介物の写真と文章で構成し、紹介者・紹介物の震災にまつわる物語やなぜ招待するのかを伝える。

○　未成年の招待者の匿名性は担保し、成人については氏名・顔写真等の掲載は任意。

○　成人の招待者も含めて、招待客からのメッセージなどがあれば官民連携推進協議会が仲介する。SNS等による直接双方向のやり取りはできないようにして、招待状を持って東北に足を運び、直接対面することを企図。

【取組案】

○　被災地の大学生・高校生等に招待状を書いてもらい、複数の招待状などを組み合わせたセットメニュー（半日から１日程度の周遊コース）を作成するワークショップなどの実施（協力校の確保）。

○　小中学生に招待状を書いてもらうワークショップなどの実施（公共図書館における催し等を活用）。

○　実践の場などで作成した招待状やセットメニューのプレゼンを実施。

Waltz：４分の３拍子の旋回舞曲。語源はドイツ語で「回転する」waltzen という意味。また、ドイツで職人がマイスターを目指して、各地の現場を訪れ技術等を身に付けるための１～３年間の放浪修行の旅のことをワルツという。放浪の旅・ワルツの期間中は、出身地の半径50㎞以内には立ち入れない、黒い帽子・ジャケットを着用する等のルールがある。

8．TOHOKU Waltz Invitation Card & Set Menu

参考：令和5年5月23日
第1回意見交換会　資料1

【招待状イメージ 表面】

紹介物タイトル（日・英）

紹介物の写真

テキスト（日本語）
※ 10.5ポイント Meiryo UI

【招待状イメージ 裏面】

テキスト（英語）
※ 10.5ポイント Meiryo UI

招待者の情報（日・英）
※ 10.5ポイント Meiryo UI
成人招待者は顔写真等も掲載可

ＱＲ
コード
より詳細な物語・
GIS等へのリンク